

# 平成 27 年度第 1 回 海岸工学委員会議事録

開催日時：平成 27 年 6 月 9 日(金) 14:00～17:15

開催場所：土木学会 2 階 講堂（東京都新宿区四谷 1 丁目 外濠公園内）

出席者：喜岡相談役，佐藤前委員長（委員長選挙まで），青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松，柿沼，高橋の各小委員長，北野主査，田島，越村，荒木の各副小委員長，有川，池谷，伊藤，井上，太田，大村，岡，岡田，小野，小竹，小林，斉藤，作野，鈴木，鳥居，中嶋，松本，水谷，宮武，横木の各委員，小笠原，片山，桐，栗山，後藤，武若，池野（松山代理）の各委員兼幹事，下園幹事（オブザーバー）

資料：

- ・平成 27 年度第 1 回海岸工学委員会議事次第（資料 1）
- ・PowerPoint スライド（資料 2）

## ■審議・報告事項

### 1. 委員紹介

- ・委員の自己紹介を行った。
- ・委員長指名委員：川崎，高橋，津田
- ・委員長指名幹事：原田，下園

### 2. 前回議事録の確認

- ・委員会 WEB に公開済み

### 3. 議事前報告

- (1) JSCE-PICE ジョイントセミナー@フィリピン実施報告（土木学会ジョイントセミナー助成）（田島副小委員長）
  - ・2014 年 11 月 28 日にフィリピン・ケソン市にて開催
  - ・日本から 7 編，フィリピンから 7 編の発表，84 名の参加者
- (2) 第 61 回海岸工学講演会報告（水谷委員）
  - ・2014 年 11 月 12 日～14 日に名古屋市にて開催
  - ・660 名の参加者，気候変動と津波に関する前日シンポは 59 名と 55 名の参加者
  - ・見学会 A コース，B コースは 28 名と 32 名の参加者
- (3) H26 年度活動度評価結果について（佐々木前幹事長）
  - ・評価結果は B ランクで，H27 予算配分は「1,058 千円」となった。
  - ・web で一般公開が周知されている「行事参加者数」と「出版物購読者数」で評価が決まる。従来は A ランクであったが，H24 年度から評価方法が変更となり，A ランクを得るのが難しい状況となった。
  - ・対策は，「共催を増やす」，「各小委員会等で開催している公開行事の名簿を学会事務局に必ず提出する」等が挙げられ，これまで名簿を提出していなかった APAC 等の行事についても検討することとした。

#### 4. 2015-2016 年度委員長選挙

- ・投票の結果、青木前副委員長が委員長に選任された。

#### 5. 副委員長の推薦・承認、幹事長の指名、相談役の推挙（青木委員長）

- ・投票結果を参考に副委員長には岡安小委員長が推薦され、承認された。
- ・幹事長には佐々木委員兼幹事が指名された。
- ・相談役に間瀬元委員長が推挙され、承認された。

#### 6. APAC の Council ・ ISC 選任方法について（喜岡相談役、佐々木幹事長）

- ・喜岡相談役から APAC の現状と Council ・ International Steering Committee (ISC)の選任方法について説明があり、海岸工学委員会との協力体制を強化することが確認された。
- ・ Council ・ ISC 選任方法に関する下記の申し合わせが提案され、承認された。

記

##### 1. Council（定員 2 名）

- ・新任の Council は、現職 Council の推薦とする。
- ・1 名は海岸工学委員長または副委員長を充て（委員長枠）、この枠での任期は 4 年・再任不可とする。
- ・他の 1 名は任期を定めない。

##### 2. International Steering Committee（定員 4 名）

- ・新任の ISC は、現職 Council と海岸工学委員長で協議し、Council 合意の下で、海岸工学委員長推薦とする。
- ・1 名は海岸工学委員会幹事を充て（幹事枠）、この枠での任期は 4 年（再任不可）とする。幹事枠の ISC は APAC と海岸工学委員会の連絡責任者とする。
- ・他の 3 名は任期 4 年（再任可）とする。

以上

- ・申し合わせに従い、Council（定員 2 名）に青木委員長（委員長枠）と佐藤前委員長が推薦され、承認された。
- ・ISC（定員 4 名）は後日関係者で検討の上、メールで報告することとした。

#### 7. 海岸工学論文集第 62 巻応募論文審査（森小委員長、田島副小委員長、佐々木幹事長）

##### (1) 第 1 段審査報告

- ・第 1 段審査：登録論文数 381 編（和文：359、英文：15、企画セッション+論文掲載：5（和文のみ）、企画セッション発表のみ：2（和文：1、英文：1））
- ・査読者割り当て：幹事会、論文集編集小委員会、その他の各グループから第 2 専門分野まで配慮、約 18.3 編/人
- ・査読受諾意思確認：幹事 28 名、海岸委 18 名、編集委 22 名、その他 36 名、計 104 名
- ・通常論文および企画セッション（論文あり）は一切区別なく査読し、企画セッション（論文なし）はヘッダーに企画セッションであることを明示して査読した。

##### (2) 通常号および CEJ 掲載分の講演会発表枠

- ・通常号からの発表希望は 1 編（該当論文 6 編中）。
- ・CEJ からの発表希望は 0 編（該当論文 9 編中）。

(3) 査読手順について

- ・査読者 5 名, 1 人 6 点, 専門性を考慮して割り当て.
- ・スケジュール

3 月 20 日第 1 段査読依頼

4 月 2 日第 1 段査読締切

4 月 10 日第 1 段審査結果を著者に通知

(4) 企画セッション (論文なし) に投稿されたアブストについて

- ・投稿全 2 編のうち, 1 編が和文, 1 編が英文であった. 投稿要項には和文の説明しかないが, 要項を理解して投稿しており, 受け付けることとした.
- ・査読は通常論文と同じルール(6 点満点×5 人)で実施
- ・通常論文の査読最低点を十分に上回っており, 全て採択のレベルであると判断した.

(5) 各論文の評価点について

- ・評価点分布は例年と若干異なるが, 平均点は 3.71 点で例年とほぼ同様であった.
- ・各査読者の査読平均点の目安が 3.5~4.0 点であることを再確認した.

(6) 通常論文の査読結果と採択案

- ・17 点以上の論文を全て (298 編) 採択 (4 月幹事会では 299 と報告したが, 298 に訂正)
- ・第 2 段査読原稿提出時に 5 編の辞退があり, 口頭発表は最大で論文 293 編+企画 (論文なし) 2 編+通常号 1 編の合計 296 編

(7) スケジュール

- ・5/21 (木) 第 2 段審査論文提出締切
- ・5/22 (金) 論文集編集小委員会, 第 2 段査読依頼
- ・6/04 (木) 査読報告締切
- ・6/11 (木) 査読報告総括締切 (主査)
- ・6/11 (木) 論文集編集小委員会小委員長が査読結果を確認
- ・6/12 (金) 第 2 段審査結果の一斉通知
  - ・A 判定 →最終原稿を郵送提出 (締切 7/1)
  - ・B・C 判定 →最終原稿と修正報告書を web 提出 (締切 7/1)  
主査が再査読 (7/9) し, 登載可の論文の最終原稿を郵送 (締切 7/24) .
  - ・D 判定 →論文集編集小委員会・委員長等が確認のうえ返却

(8) 査読者の割り当て

- ・幹事会から主査, 論文集編集小委員会から副査 1, その他から副査 2 とする.

(9) 第 2 段査読後の原稿提出について

- ・提出期日
  - 2015 年 7 月 1 日 : 「登載可」の論文提出 (学会へ郵送)
  - 2015 年 7 月 1 日 17:00 : 「修正後に判定」の論文の修正原稿提出 (web)
- ・提出物および提出方法
  - a) 第 2 段審査時
    - pdf ファイル → 海岸工学委員会 HP より電子投稿 (修正報告書)

b) 第2段審査後 (A 判定論文)

- ・原稿 pdf ファイル (論文 ID.pdf)
- ・原稿作成時の編集ソフトによるファイル (論文 ID.拡張子)
- ・原稿 text ファイル (論文 ID.txt)
- ・論文提出明細書 (M-論文 ID.csv)
- ・印刷した原稿 (A4)

注) 今年度から図面のファイルは不要となった。

(10) 原稿執筆要領

- ・J-Stage に掲載される PDF ファイルには、カラー図表が使用可。ファイルサイズは 5MB まで。

(11) 論文集編集の検討課題および意見交換

- a) 組版、冊子体の廃止を廃止したことに伴う収益の要確保
- b) 英文論文 (全文査読) の募集を継続 (投稿数 15, 去年は 22)
  - ・留学生の投稿を促進 (国際化促進対応) .
  - ・今年度から第一著者の国籍による制約を廃止.
  - ・アブストラクトを日本語で、本論文を英語で書くことを希望する著者がいた  
→ 容認 (題目の変更は認められないため、アブストラクトの題目は英語である必要がある)
  - ・投稿申し込みシステムの英語化に不十分な点があり、引き続き更新する.
  - ・英文アブストラクトの投稿要領に曖昧な点があるので、改善することとした.
  - ・CEJ への影響→今のところ影響はなさそうであるが、引き続きモニターする.
  - ・講演会のセッションは和英混在とする.
- c) 組版・著者校正の廃止に伴う影響・効果
  - ・第二段査読時の論文フォーマット確認の厳格化? → 査読者の負担増?
  - ・査読・出版工程の短縮効果  
→ アブストラクト提出期限の延長(投稿促進効果?)もしくは J-stage 登録時期の早期化が可能となるので、継続協議.
- d) 海岸工学講演会の活性化
  - ・昨年に続き企画セッションを継続(投稿数は 7 (論文掲載あり 5, 論文掲載なし 2, うち英文 1)  
→ 熱意あるコーディネーターが必要
  - ・アブストラクトを概要集として web 公開することとしているが copy transfer を入手していないことへの議論があり、要検討.
- e) 論文題目変更, 著者変更について
  - ・論文題目変更や著者変更に関して, 不適切な依頼が散見されるが, 投稿要領の通り原則として認められないことを周知徹底することとした.

(12) 著者負担金と論文集価格

- ・著者負担金は 40,000 円を上限, 今年度は著者負担金 35,000 円 + DVD1,000 円の予定.
- ・論文集 DVD のみの販売も予定.
- ・DVD 表紙の著作権についての議論があり, 北野主査が確認することとした.

(13) JSTAGE 作業について

- ・土木学会論文集通常号の BIB 作成, アップロード作業を行う業者と特別号の BIB 作成業者 (アップロードを通常号業者に委託すると, これまでより料金が高くなる) が異なる .
- ・本年度も特別号のみ例年と同一業者で行う (結果的には, 作業料金が安い) .
- ・最終原稿は camera-ready とし, 組版はしない.
- ・csv ファイルから XML ファイルへの変換作業が必要になる.

## 8. 海岸工学講演会企画 session について

### 2015 年度 (武若委員兼幹事)

- ・海岸工学分野における気候変動への対応をテーマとし, 2015 年 1 月に海岸工学委員会 web およびメーリングリストで募集を行った.
- ・企画セッション (論文ありおよび論文なし) に投稿された論文で採択見込みのものが 7 編あるため, セッションのキャパシティを考えると, 一般応募論文から企画セッションに選定することは行わない予定.
- ・企画セッションの講演見込み数は 7, 依頼による講演 (招待講演) を 1 加えると, 1 講演あたりの発表時間が約 19 分弱となるが, 2 セッションに収めることとした.
- ・招待講演は中北英一氏 (京大防災研, 水工学委員長) とし, 海岸工学委員会からの旅費支出が承認された.
- ・企画セッションとのパラレルセッションは 2 つ減らして 2 とし (企画と合わせて 3), これに伴う講演会の時間延長や会場費増が承認された.

### 2016 年度 (佐々木幹事長)

- ・委員会および幹事会メーリングリストでテーマやコーディネータを募集し, 1 件 (沿岸域小委員会関連) 応募あり.
- ・沿岸域小委員会を中心に検討いただき, 9 月の幹事会でおおよそのテーマおよびコーディネータの候補を挙げることにした.

## 9. 海岸工学論文集の将来検討について (北野主査)

- ・組版廃止に伴い, 副査によるフォーマットのチェックが非常に重要.
- ・海岸工学論文集のサンプル, 土木学会通常号で用意されているサンプル (Word, LaTeX) 程度の体裁の揺らぎは許容する.

## 10. 第 62 回 (2015 年度) 海岸工学講演会の準備状況について (下園幹事)

- ・日程: 平成 27 年 11 月 11 日 (水) ~ 13 日 (金)
- ・会場: タイム 24 ビル (臨海副都心青海 (台場))
- ・見学会: 実施しない
- ・懇親会: 11 月 12 日 (木), タイム 24 ビル 11 階シーガル, 懇親会費を 5,000 円程度に抑える予定.
- ・後援先: 国交省関東地方整備局, 東京都に依頼予定
- ・予算は会場費が高額なため, 400 万円を少し超える見込み

## 11. 第 62 回海岸工学講演会前日シンポジウムについて (下園幹事, 佐々木幹事長)

- ・11 月 10 日 (火) 17~20 時, 場所: お茶の水の中央大学駿河台記念館 (予定, 予約は 4 ヶ月前から)
- ・現時点で候補がないため, 各小委員会等で検討いただきたい. 個別に相談する予定.

## 12. 第 63 回 (2016 年度) 海岸工学講演会の開催 (会場など) について (荒木副小委員長)

- ・日程：平成28年11月16日（水）～18日（金）
- ・会場：大阪大学中之島センター（北区中之島）
- ・前日シンポジウム，会場：同会場佐治敬三メモリアルホール（第1会場）を予約
- ・見学会：2コースを設定予定
- ・懇親会：11月17日（木），近隣のホテルで計画中
- ・後援先：国交省近畿地方整備局，大阪府，兵庫県，大阪市，神戸市に依頼予定

#### 13. 第64回（2017年度）海岸工学講演会の開催地について（佐々木幹事長，渡部小委員長）

- ・過去の開催地の状況が紹介され，2017年度は北海道・東北エリア，特に北海道が有力候補と提案され，渡部小委員長（北海道地区）を中心に検討をお願いすることとした。
- ・現時点で，開催地は札幌が予定されている。
- ・北海道開催の場合は気候を考慮し，開催時期を早める可能性が高い。

#### 14. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

- ・Special Issue を毎年発行していくため，World Scientific (WSPC)の依頼で年間の発行号数を増やす検討をしてきたが，6号体制は現状の論文数では困難であり，5号（奇数）体制はWSPCが認めなかったため，年間4号発行を当面維持することとした。
- ・委員（エディタ）の交替（海洋開発委員会推薦：千葉工大五明氏→東工大高木氏）が報告された。
- ・2015年3月の特集号は，ドイツを中心にFlood risks をテーマに準備している。
- ・2016年3月の特集号は，田島副小委員長に台風Haiyan をテーマをお願いしている。
- ・2016年12月は，高橋委員に震災5周年記念特集をお願いしている。  
→土木学会論文集通常号でも同時期に震災特集をするがCEJの方が早く出版される予定
- ・Coastal Engineering Journal Award およびJAMSTEC 中西賞の選考手順について提案され承認された。  
これを受けてCoastal Engineering Journal Award とJAMSTEC 中西賞の受賞候補論文の提案があり，承認された。
- ・CEJ Citation Award の選考方法について説明があり，受賞論文が紹介された。
- ・CEJ への投稿状況について報告があり，2015年は既に48編の投稿があるとの報告があった（2013年の投稿数は42編）。投稿数増にあたり，Editorを増やしたいとの提案があり，了承された。
- ・CEJ Citation Award は毎年同じ論文が受賞する可能性を避けるため，一つの論文あたり1度しか受賞しないことを確認した。

#### 15. 研究小委員会等の活動について

##### 広報（川崎小委員長（委員会後小委員長に指名））

- ・活動状況（Web情報の充実，アウトリーチの充実）について報告がなされた。
- ・討議集の扱いは今後の課題となった。

##### 沿岸域（重松小委員長（委員会後小委員長に指名））

- ・4/18開催の勉強会の案内があった。
- ・新委員の加入紹介があった。

##### 津波（高橋小委員長（委員会後小委員長に指名））

- ・2014年度までの活動報告が行われた。また，最終成果をCEJ特集号（2016年12月）に掲載し，活動を終了するとの報告があった。

- ・2015年度から津波小委員会「津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会（仮称）」を立ち上げたいとの提案があり、趣旨説明がなされ、承認された。

#### 波動モデル（柿沼小委員長（委員会後小委員長に指名））

- ・活動状況報告が行われ、2年間の期間延長の提案があり承認された。

#### 減災アセスメント（岡安小委員長・副委員長）

- ・活動報告があり、平成27年度土木学会重点課題に「津波被害軽減のための事前対策と復旧・復興のための制度設計の検討」のテーマで応募し、採択された旨報告があった（助成額280万円）。
- ・土木計画学研究発表会スペシャルセッション、土木学会全国大会研究討論セッションの開催案内があった。

#### 16. 第51回（2015年度）、第52回（2016年度）水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について

##### 第51回水工学に関する夏季研修会（鈴木委員）

- ・8月24日（月）～8月25日（火）に横浜国立大学で開催される。
- ・Bコースは「沿岸域の防災と減災」、Aコースは「流域管理における防災と環境の対策技術」
- ・Bコースの講師と題目案が紹介され、承認された。

##### 第52回水工学に関する夏季研修会（佐々木幹事長）

- ・水工学委員会が主担当のため、開催場所が決まり次第、海岸工学委員会の担当を決める。

#### 17. その他

- ・日本地震工学会「各種構造物の津波荷重の体系化に関する研究委員会（委員長：中大有川氏）」について案内があった。参加希望の委員は有川委員まで連絡することとした（有川委員）
- ・2016年8月30日から9月2日にホノルルにて、7th Civil Engineering Conference in the Asian Region (CECAR7)が開催される。2015年6月11日が、アブストラクト締切である。現時点で7編程度の応募がある。（高橋小委員長）
- ・海岸工学委員会に関連する国際会議、国際シンポジウム等の案内を、土木学会英語版HPに掲載してほしい旨、土木学会国際センター・情報グループから依頼があり、対応することとした。まずは、APAC2015の案内を掲載することとした。情報提供がある場合は、広報小委員長と幹事長に連絡することとした。（川崎小委員長）

次回の海岸工学委員会は、2015年11月11日（水）18:00頃～海岸工学講演会会場にて

（幹事会は2015年9月24日（木）14:00-17:00 土木学会にて）

記録(作野)